

	子どもへの教育内容	その成果	市民と自転車の関わり
ドイツ	小学校での自転車教室。 (小学3年生後半～4年生前半) 警察が小学校で自転車の指導を行い、児童一人一人に「自転車証」を交付。 自転車証を保持することで、保護者なしでの自転車通学を許可される。	児童自身が自転車に乗ることに対しての自信が付き交通道路標識に対しての意識の持ち方が変わる。 また走行中にチェーンがはずれても自ら修理に取り組めるなど、機材を理解する意識づけがなされている。	駅、スーパーなどの場所には、必ず自転車のスタンドなどが設置ラッシュアワー以外なら電車にも乗り入れることができる。 自転車を利用する人は年齢に問わずたくさんいる。 なにより自転車に乗ることが健康であり、また環境問題にも取り込める一つだと意識を持っている人が多い。
ベルギー	小学校での自転車教室。 警察による交通安全講習（年に一回） 年齢や対象向けに様々な教習テキストが用意されていたり、夏休みの期間に開催されるステージでのVTT（自転車教室） 休日などを利用して、家族で自転車散歩に出て子どもを指導するのが一般的	子どもたちは、かなり小さな子どもでも交通ルールや手信号を理解している。 子どもたちは、2列6連など自転車の行列を作り、前後・左右の車間距離を保って、驚くほど上手にいつまでも長く走って学校に通学するようになる。	自転車のメンテナンスは常識。 エコな交通手段としての自転車の活用度が非常に高い。 夏休みの家族旅行で幼児を連れて自転車旅行をする人が多い。 (悪天候でもおかない)
オランダ	小学校での警察による自転車教室。 5年生に自転車筆記試験。 オランダ交通安全協会が教材アプリを作成。無料ダウンロードでき、親が子供と一緒に練習できるように作られている。	小さな子どもでも自転車に乗って平気で遠くへ行く。 メンテナンス、修理は小学生でも常識。	自転車は生活必需品の一つという考え方で、子ども自転車はフリマなどでどんどん流通させる感覚。 地域が都市計画の一環として真剣に取り組むため、自転車に優しいインフラストラクチャーを作っていく姿勢が見られる。
デンマーク	小学3年生以降、学年ごとに違ったカリキュラムで自転車教育を行う (交通ルール～技術～メンテナンス～ツアーサイクリング) 消防署などによる自転車技術講習とファーストエイド講習 ABC サイクルというコンペを毎年全国の学校のクラス対象に行う	子どもたちが自転車に乗るのが大好きでかなり遠い所でも、平気で行く 移動の足の基本は自転車が当たり前、雨の日も自転車通学が当然 子どもたちのサイクリング行事では、伴走も指導者もいない。それまでの学校での指導があるから、子どもを信用して送り出している	エコと健康意識が高く自転車道もしっかり整備されている。 駐車違反がほとんどないこともあって、快適に乗るための自転車道が機能している。 国民全体のマナーがいきとどいている コペンハーゲンでは、自転車での通勤通学率50%にする目標を掲げ、自転車都市世界一を目指している